

組織基盤強化ツール開発 及び検証に関わる調査事業 報告書

組織を支える 17 の視点
〔自己診断シート〕

2019 年 3 月

特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構

組織基盤強化ツール開発及びツール機能検証
報告書 目次

1. はじめに	P2
2. 概要	P3
[1] 事業の目的	
[2] 事業の概要	
3. 成果物	P4
◆組織基盤強化ツール「自己診断シート：組織を支える 17 の視点」	
◆JCNE のベーシック評価導入に利用する問診ツールとして	
[1] 自己診断シートの説明	
[2] 使用方法	
◆ベーシック評価 23 基準と、自己診断シートの設問の回答との関連表	
4. ツールの機能検証とヒアリング.....	P13
[1] ツールの機能検証	
[2] 振り返り会	
[3] 検証のポイント	
5. 会計報告.....	P16
6. 資料.....	P17

1. はじめに

本事業では、組織基盤強化ツールとして「自己診断シート 組織を支える 17 の視点 (試作版)」を作成しました。このツールは、組織の自己診断の手法を使い、支援者からの支持を得るために、団体の組織基盤の現状把握を団体自身が客観的に行うものです。

更なる支援や信頼を得ようと希望する NPO 法人には、この自己診断シートを利用して非営利組織評価センター (以下 JCNE) の運営する「ベーシック評価」に進むことを期待しています。

加えると、支援者からの信頼や支持を求める市民活動団体の間に、中間支援組織を介在させ、シートによる自己診断後、中間支援組織のサポートを受け、組織基盤の改善ができることで、効果が高まる仕組みです。

本調査事業では、シートの体裁や設問・回答案など内容も含め、調査対象を選定いただいた組織中間支援組織の関係者の皆様と、記入していただいた組織のみなさまのご協力の元、機能検証を行いました。結果として JCNE のベーシック評価に進む際の間診ツール「使える組織基盤強化ツール」として機能することを確認できました。本報告書では、1) 開発ツール、2) 使用方法、3) 検証とヒアリング、3 点についてご報告させていただきます。

2. 概要

[1] 事業の目的

本委託業務では、各地の中間支援センターが実施している組織基盤強化事業から非営利組織評価センターが運用する「ベーシック評価」に至るまでの道筋を行う、組織基盤強化ツール（仮称：問診支援チャート表）の開発を目的として実施しました。この開発したツールを活用して、全国の中間支援センターを通じ「グッドガバナンス認証制度」の意義を現場 NPO へ浸透させ、最終的には地域全体における NPO 法人等への期待を信頼性に代えることを目指しています。

[2] 事業の概要

<委託事業実施対象者／委託業務実施要綱>

NPO 法人等への中間支援的機能を持った法人として、認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構が、下記の事業を実施しました。

<委託業務内容／委託業務実施要綱>

(1) ツール開発と成果物の完成

調査内容の集計と調査結果の分析による組織基盤強化ツールの開発を行う。

具体的には組織基盤強化、JCNE ベーシック評価導入に利用する問診ツールの開発を行う。

(2) ツール機能検証と利用者ヒアリング

対象地域の選定、5～10 か所程度。

開発したものが、目的に合致したものとして機能するのかを実施検証する。

市民活動団体を対象とした、ベーシック評価及び組織基盤強化ツールに対する使用感調査の実施。

<委託業務内容の事業スケジュール>

※依頼した中間支援組織（以下：協力団体）、自己診断を実施していただいた団体（以下：対象団体）

日程	実施内容
2018年 11月末	・設問カテゴリーについての検討 ・粗案作成
12月初	・協力団体（相模原、小田原）にヒアリング ・再検討から、「自己診断シート（試作版）」作成
12月中旬	・設問の言葉遣い、問いかけ方について再検討
12月末	・協力団体へ本検証事業の協力と依頼 ・自己診断シートの修正、試作版としての完成
2019年 1月	・協力団体への自己診断シート送付と団体訪問 ・診断集計方法の検討
2月	・記入済自己診断シートの回収 ・回収診断シートの集計と検証
3月4日(月)	振返り会 ・使用感及び開発ツールとしてのヒアリング ・今後に向けた情報の共有
3月22日(金)	報告書提出

3. 成果物

◆組織基盤強化ツール(仮称:問診支援チャート表)の開発としての自己診断シート

ベーシック評価導入に利用する組織基盤強化ツールとして、自己診断シート「組織を支える 17 の視点」を作成しました。

◆JCNE のベーシック評価導入に利用する問診ツールとして

自己診断シートの記入には、「時間をかけず、感じたままを気軽にご回答ください。」を記載し、自己診断に対する障壁の軽減に努めました。

地域の活動団体にとって「診断・評価」、「組織の基盤強化」は、総論的には必要性が認識されるようになりましたが、具体的な実施に対しては、身近になっているとは言えません。

本事業においても、粗案では組織課題の見える化、必須となる管理体制の確認等、組織診断に欠かせない最低限の項目の洗い出しから始め、組織基盤強化に必要な項目の確認ができるようにしました。大枠の内容を網羅し、組織課題になりやすい項目、問題になりそうなガバナンス項目等から設問を作成しました。それを市内の NPO 法人に読んでもらいましたが、「設問が難しく解説がないと回答できない」等の感想となり、また協力いただいた中間支援組織においても「市民活動団体に説明が難しい」との意見をいただきました。

この結果を受け、JCNE のベーシック評価の 23 基準の内容を紐解き、極力基準が求める内容を加味し、扱いやすい組織基盤強化ツールとして、再検討を行いました。

検討にあたり、必要事項を最小限に抑え、専門用語も極力使わないようにし、記入者の負担感の軽減（何を問いかけているかが明確に伝わること）に注力しました。その結果、「10～15 分あれば記入できた」とのヒアリング結果を得ることができ、気軽に自己診断に取り組める身近な自己診断シートとなり、「診断・評価」、「組織の基盤強化」に向け、誰もが扱いやすい組織基盤強化ツールと呼べるものになりました。

次ページ以降が、開発作成した「組織を支える 17 の視点」 Ver. 1 です。

◆各設問に「○」をつけてご回答ください。

1 設立時の活動への想い（組織の目的）は文書になっている。そして、それは一緒に活動している人たちに理解されている。

はい	文書になっているが、共有はできていない	文書はないが、理解されている	いいえ	考えたことがない	
----	---------------------	----------------	-----	----------	--

2 組織の活動目的は、社会や地域を何とかしたいという想いや、今までにない新しい取り組みが込められている。

はい	概ね思う	少し思う	いいえ	考えたことがない	
----	------	------	-----	----------	--

3 組織のルール（規約、会則、定款等）は文書になっている。また、活動に関わる人たちも知っている。

はい	文書になっているが、知っている人は少ない	文書になっていない	ルールはない	考えたことがない	
----	----------------------	-----------	--------	----------	--

4 役員（理事、運営委員、監事）の役割や決め方を決めている。

はい	役割は決まっているが、役員の決め方に決まりはない	役割は明確でないが、役員の決め方は決まっている	いいえ	考えたことがない	
----	--------------------------	-------------------------	-----	----------	--

5 活動の計画書・報告書は毎年作成している。

はい	報告書は毎年作成している	必要に応じて作成している	いいえ	考えたことがない	
----	--------------	--------------	-----	----------	--

6 活動の予算書・決算書は毎年作成している。

はい	決算書は毎年作成している	必要に応じて作成している	いいえ	考えたことがない	
----	--------------	--------------	-----	----------	--

7 組織において、新たなボランティア、スタッフなどを受け入れる体制（人材育成担当スタッフの存在や受け入れ説明会の開催など）はできている。

はい	体制は不十分だが、受け入れたことはある	体制はあるが、受け入れたことはない	いいえ	考えたことがない	
----	---------------------	-------------------	-----	----------	--

8 必要な資金の調達を行う工夫をしている。

はい	努力している	あまり注力していない	いいえ	考えたことがない	
----	--------	------------	-----	----------	--

9 今の活動は、設立時に立てた何とかしたいという課題の解決に向かっている。

はい	大体できている	少しできている	いいえ	考えたことがない	
----	---------	---------	-----	----------	--

10 自団体の活動に役立ちそうな社会情勢の変化を追いかけている。

はい	ときどきしている	あまりしていない	いいえ	考えたことがない	
----	----------	----------	-----	----------	--

11 活動に関わる人たちの満足を得るための工夫をしている。

はい	努力している	あまり注力していない	いいえ	考えたことがない	
----	--------	------------	-----	----------	--

12 広く社会に向け、働きかけや団体情報等の情報を発信している。

はい	強化したいと思っている	あまり必要と思わない	いいえ	考えたことがない	
----	-------------	------------	-----	----------	--

13 会議（総会、役員会、理事会、運営委員会等）の記録（議事録等）を作成し保管している。

はい	保管しているものもある	保管していない	記録はない	考えたことがない	
----	-------------	---------	-------	----------	--

14 個人情報、適正に管理（取得目的の明示等）している。

はい	適正な管理かどうか分からない	個人情報は受け取らないようにしている	いいえ	考えたことがない	
----	----------------	--------------------	-----	----------	--

15 現金・通帳・帳簿類、印鑑などの管理についてのルール（複数人による管理等）は文書になっている。

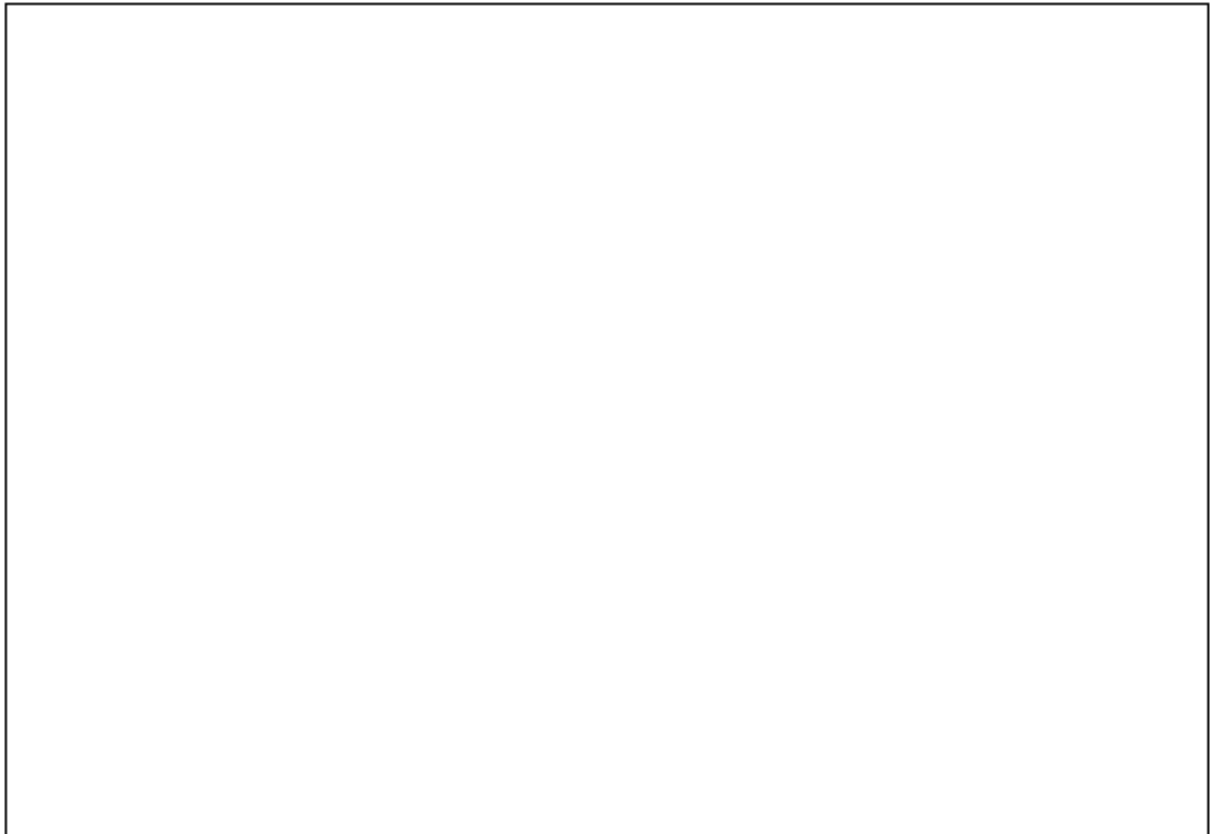
はい	ルールはあるが文書になっていない	必要だと思うが作成していない	会計のルールはない	考えたことがない	
----	------------------	----------------	-----------	----------	--

16 組織の活動規模や予算規模、活動エリアなど、将来に向けた組織のイメージがある。

はい	イメージがある関係者がいる	イメージがある関係者もいると思う	いいえ	考えたことがない	
----	---------------	------------------	-----	----------	--

17 これからの組織をどうしていきたいか、活動している人たちと話し合う機会を持っている。

定期的で開催している	不定期で開催している	話し合いに参加したことはない	話し合ったことはない	考えたことがない	
------------	------------	----------------	------------	----------	--



組織を支える17の視点〔自己診断シート〕Ver.1

制作：認定特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構
〒251-0052
神奈川県藤沢市藤沢577番地寿ビル301号室
TEL: :0466-53-7366
URL :<http://f-npon.jp/>
Email :f-npoc@shonanfujisawa.com

※本シートは、貴団体の組織の基盤強化にご活用いただく目的で作成したものです。
それ以外でのご使用はできません。

マネジメントの体系に基づく設問として、回答のしやすさを第一優先に、市民活動団体の成り立ちから将来に向けた時間軸で捉え直し、設問の順番を決定していきました。

市民活動団体は「想い」から始まります。「想い」を「カタチ」にして「共感」を得ることにつきます。「診断」や「評価」はとかく「カタチ」に向かいます。そこに何らかの壁を感じていました。そこで、本事業に向け、「想い」から生まれた「カタチ」を丸ごと「自己診断」できないかと考え、時系列で設問を作成し、「共感」に続くイメージを膨らませていただけるようにしました。「診断」や「評価」では、あまり見かけない「想い」、つまり、ミッションに向けた設問を最初に登場させています。続く「カタチ」では、コンプライアンスを含むマネジメントへの言及です。これも纏めず、活動の動きに合わせた順序で回答できるよう、比較的、設立当初に決めるべき内容は前半に、今後への想いは後半に置きました。また、随所に管理（ガバナンス）に関する設問も入れ込み、17の設問を作成しました。簡単な分析方法も自己診断後にお伝えできるように準備したため、強みや弱みを可視化することができます。その結果を受け、組織内で改善していくこともできますが、日本の特徴ともいえる中間支援組織の助言や支援を受けることにより、組織基盤の強化へつながります。NPO 法人の場合、ベーシック評価へのチャレンジも視野に入ります。

以下に、組織のミッション、マネジメント・コンプライアンス、ガバナンスに分類した場合の設問票を記します。

●体系から見た設問の構成

項目	自己診断シートの設問（要約）
(1) 団体の想い、組織の目的、目指している組織の姿、事業等の視点(ミッション)	
設立時の想い	【設問 1】 設立時の活動への想いの文書化、共有について
地域性、創造性	【設問 2】 組織の活動目的、社会・地域課題、新しい取組について 【設問 9】 今の活動と設立時の課題解決の想いについて 【設問 10】 社会情勢の変化への関心について
事業性	【設問 5】 活動計画書・報告書について 【設問 9】 今の活動と設立時の課題解決の想いについて
将来性	【設問 16】 活動規模、予算規模、活動エリア、将来イメージ 【設問 17】 これからの組織についての話し合いについて
(2) 組織活動の体制(経営資源/ヒト、モノ、カネ、情報)の視点(マネジメント)	
人材	【設問 7】 新たなボランティア、スタッフの受入体制について 【設問 11】 活動に関わる人たちの満足のための工夫について 【設問 17】 これからの組織についての話し合いについて
事業活動	【設問 5】 活動計画書・報告書について 【設問 9】 今の活動と設立時の課題解決の想いについて 【設問 10】 社会情勢の変化への関心について
資金	【設問 6】 活動予算書・決算書について 【設問 8】 資金の調達の工夫について
情報収集・発信	【設問 10】 社会情勢の変化への関心について 【設問 12】 広く社会に向けた働きかけ、団体情報の発信について

(3) 組織活動における基本的な管理体制の視点(ガバナンス)	
ルール	【設問 1】 設立時の活動への想いの文書化、共有について 【設問 3】 組織のルールの文書化、活動に関わる人たちへの周知 【設問 4】 役員の役割、決め方について 【設問 15】 現金・通帳・帳簿類などの管理のルール化・文書化について
管理	【設問 5】 活動計画書・報告書について 【設問 6】 活動予算書・決算書について 【設問 14】 個人情報について 【設問 13】 会議（総会、理事会等）記録、議事録について 【設問 15】 現金・通帳・帳簿類などの管理のルール化・文書化について

[2] 使用方法

本シートは、自己診断が基本となりますので、自由に計画していただくこともできますが、推奨する使用方法を以下に記します。

- 1 シートをできるだけ多くの組織の関係者に配布し、個人の感覚で回答する
- 2 回答を集計し、簡易分析する
- 3 組織のコアメンバー（役員や運営委員など）で分析結果を読み込み、組織の課題をあぶり出す
- 4 場合によっては、他のメンバーと課題共有のための意見交換を行う
- 5 組織の課題を解決すべきと判断した場合、
→組織内で改善案を計画し、実行する
→中間支援組織の支援を受ける
- 6 組織の課題解決又は改善が見込めたと自己判断した場合、
→17の視点に再度挑戦し、改善を確認する
→ベーシック評価にチャレンジする
- 7 自己診断結果や評価結果を支援者に向け情報公開する

上記の手順により、組織の弱みや課題が明確になり、改善の方向を見つけることができます。現存する市民活動団体は多様化しており、全ての組織に共通する課題改善の特効薬はありません。それぞれの組織の特徴や進むべき方向性により改善手順や方法は様々です。自己改善が可能であれば、最高の方法ではないかと考えます。しかしながら、第三者からの目線による改善方法は、たこつぼ化した組織にとって大変新鮮で有効性が高いと思われます。できることであれば、地域内で数多く市民活動団体に接している、中間支援組織の支援を受けることも視野に入れ「組織を支える17の視点」を活用することが望ましいのではないのでしょうか。

次のチャレンジとして、「ベーシック評価」を薦めるにあたり、「組織を支える17の視点」と「ベーシック評価23基準」を照らし合わせた「設問の関連表」を作成しました。参考として以下に記します。

◆ベーシック評価 23 基準と、自己診断シートの設問の回答との関連表

※直接的関連の設問／自己診断によってベーシック評価の基準が確認できる設問

間接的設問／ベーシック評価の基準を満たすためには、自己診断での確認が必須となる設問

	No.	ベーシック評価 23 基準 基準項目	↓〔直接的関連の設問〕 自己診断シート ↓〔間接的設問〕
組織の目的と事業の実施	1	組織の目的と事業を文書化している	【設問 1】設立時の活動への想い(組織の目的)は文書になっている。そして、それは一緒に活動している人たちに理解されている。
	2	非営利型法人である	【設問 1】設立時の想い(組織の目的) 【設問 3】組織のルール
	3	組織の目的に沿った単年度事業計画を策定している	【設問 5】活動の計画書・報告書は毎年作成している。
			【設問 1】設立時の想い(組織の目的) 【設問 2】組織の目的 【設問 12】情報発信
	4	事業の対象となる社会的ニーズや課題を多様な関係者からくみ取る仕組みがある	【設問 10】自団体の活動に役立ちそうな社会情勢の変化を追いかけている。
【設問 2】組織の目的 【設問 9】活動は、設立時に立てた課題解決に向かっていている。			
5	各事業の定期的な振り返りや見直しを行っている	【設問 9】課題解決意識 【設問 13】会議の記録 【設問 17】将来展望の共有	
ガバナンス	6	法令および定款に則って代表者および役員(理事 3 人以上、監事 1 人以上)を選任または解任している	【設問 4】役員(理事、運営委員、監事)の役割や決め方を決めている。
			【設問 3】組織のルール
	7	定款に基づく役員会(理事会、運営委員会等)を年に 2 回以上開催している	【設問 3】組織のルール
	8	社員総会(評議員会)を年に 1 回以上、実際に開催している	【設問 3】組織のルール
	9	役員会および社員総会(評議員会)の議事録を定款および法令に基づいて作成している	【設問 13】会議(総会、役員会、理事会、運営委員会等)の記録(議事録等)を作成し保管している。
			【設問 3】組織のルール
10	1 事業年度において、役員会(理事会、運営委員会等)または社員総会(評議員会)で、法令および定款で定める事項の他の内容の審議を行っている	【設問 5】活動の計画書・報告書 【設問 6】活動の予算書・決算書	
11	監事は監査を行っている	【設問 3】組織のルール	

コンプライアンス	12	税金を滞納していない	【設問 5】活動の計画書・報告書 【設問 6】活動の予算書・決算書 【設問 15】現金等管理
	13	直近の登記事項を登記している	【設問 12】情報発信
	14	個人情報保護に関する規程を定め、取得目的を明示している	【設問 14】個人情報は、適正に管理(取得目的の明示等)している。
情報公開	15	組織の所在地および問い合わせ方法をウェブサイト上で公開している	【設問 12】情報発信
	16	法令で定められた書類を事務所に備え置き、閲覧可能な状態にあるとともに定款、役員名簿、社員名簿、事業計画、事業報告書、会計報告書類、役員報酬をウェブサイト上で公開している	【設問 3】組織のルール 【設問 5】活動の計画書・報告書 【設問 6】活動の予算書・決算書 【設問 12】情報発信 【設問 14】個人情報
	17	寄付者・支援者等に事業の成果を報告している	【設問 12】情報発信
事務局運営	18	会計に関する専門知識をもった担当者またはアドバイザーがいる	【設問 15】現金等管理
	19	現金の取扱い・資金管理に関して複数人によるチェック体制がある	【設問 15】現金・通帳・帳簿類、印鑑などの管理についてのルール(複数人による管理等)は文書になっている。
	20	法定保存文書の保存をしている	【設問 13】会議の記録
	21	雇用契約書等で雇用条件の提示を行っている	【設問 3】組織のルール
	22	職員の就業状況を把握し、管理している	【設問 3】組織のルール
	23	労働保険に加入している	【設問 3】組織のルール

4. ツールの機能検証とヒアリング

[1] ツールの機能検証

1 定義:ツールの機能検証に際し、本ツールの機能を定義する。

- (1) 組織診断や組織評価に向け、行動を起こす市民活動団体を増やすこと
- (2) 本ツールを使用したことにより、組織内の課題に気づくこと
- (3) 第三者による評価の必要性に気づくこと →ベーシック評価への意識の醸成
- (4) シートの使用にあたり、中間支援組織の介在が必要であること

2 検証の実施

(1) 研修会による使用感調査と機能検証に向けたヒアリング

藤沢市：マネジメント研修会 1月31日開催

「事業報告書の作成に向けた“自己チェック！”～強みと弱みを知ろう」

参加人数：5名 4団体 シート回収：5シート

平塚市：マネジメント研修会 2月8日開催

「事業報告書の書き方講座」

参加人数：14名 8団体 シート回収：14シート

相模原市：団体交流会 2月24日開催

参加人数：90名 55団体 シート回収：60シート

(2) 中間支援組織への機能検証に向けたヒアリング

以下のメンバーにツール開発の意義を伝え、機能検証を依頼しました。

それぞれが、地域で活動する市民活動団体の支援を軸に活動を実施しており、それ以後、2～3 団体を選定し実際に使用することを念頭に機能についてヒアリングしました。

- ・おだわら市民交流センターUMECO（椎野典子氏）
- ・さがみはら市民活動サポートセンター（水澤弘子氏）
- ・逗子文化プラザ市民交流センター（小林由高氏）
- ・藤沢市市民活動プラザむつあい（堀千鶴氏）
- ・NPO 法人ファザーリングジャパン（東浩司氏）

(3) 中間支援組織による使用者(市民活動団体)へのヒアリング

上記に掲げる中間支援組織のメンバーが選定した市民活動団体にシートを渡し、使用を依頼し回収していただきました。シート回収時に使用の感想とシートの有効性のヒアリングを依頼しました。

(4) 回収したシートの内訳

	法人	任意団体	合計
団体数	28 団体	49 団体	77 団体
記入者数 (合計)	45 人	64 人	109 人

3 検証の結果

(1) 研修会による使用感調査と機能検証に向けたヒアリング

- ・シート開発者が趣旨説明の上で、シート記入をお願いしました。
- ・直感で回答できることで、回答時間は10分から15分と大変気軽に回答いただきました。
- ・任意団体と法人との違いを懸念していたが、予想していたよりも違いは少なかった。

(2) 中間支援組織への機能検証に向けたヒアリング

- ・個別に説明し、理解を深めたため、必要性を十分に理解していただいた。
- ・昨今の「評価」思考にかなり興味関心が高く、シートの機能に理解を示していた。
- ・今後の支援ツールとして有効性を認めていただいた。

(3) 中間支援組織による使用者(市民活動団体)へのヒアリング

- ・各地の中間支援組織が本シートを有効に活用できる市民活動団体を選定していた。
- ・集計や分析結果を求めている市民活動団体があった。

※各設問に対しては、「まあまあ理解できた」、「書きやすいと思った」、「答えづらさはなかった」、「有効的な評価シートだと思います」、「おもしろいと思う」、などの好評価をいただきました。それに対して、「何の力を診断するのか明示してほしい」、「答えづらく、判断しにくい内容でした」など設問の分かりづらさの指摘もありました。

自己診断シートの有効性としては、「今現在の課題が理解できた」、「自分の団体を客観的に評価できる」、「定期的な見直しは必要と感じた」などの他、「自信を持って「はい」と答えられないものが、たくさんあった、まだまだ努力が必要だと感じた」や、「新しい視点を大事にして活性化を図りたいと思う。このシートはそのようなことを考える大きなインパクトとなった」など、自団体を見つめ直すきっかけとなった例もありました。

[2] 振り返り会

機能検証に協力していただいた中間支援組織の皆様にご集まいただき、「組織を支える17の視点」シートの使用結果と今後の活用に関して意見交換会を実施しました。

○市民活動団体の視点から

自己診断シートの回収時に、いただいた意見をそれぞれの言葉で伝えていただきました。

- ・対象団体から、もう1回やってみたいとの話がありました。
- ・シートが非常に分かりやすい、団体も好意的にやってくれた。

- ・団体が組織を見直す機会となって良かった。
- ・設問が突っつきやすく、誰もが答えやすい内容だった。
- ・きっかけづくりができた気がする。
- ・団体の成果が出るように頑張りたい。
- ・実施しなかった団体にも紹介したい。
- ・監査を行う中でガバナンスの必要性は感じている。この診断が活用出来たらと思う。

○中間支援組織の視点から

- ・アウトプットイメージを提示できなかった。
- ・Before After が分かるようになると良い
- ・共通的なマニュアルができれば良い

[3] 検証のポイント

・シートの設問に関しての意見も多かったが、何よりも回答することへの抵抗感が感じられなかった。

→診断や評価に対する抵抗感を軽減できている

・組織内の課題の気づきは確実にあり、改善に向け一步を踏み出すそうとする組織もありました。

→ベーシック評価へのチャレンジへの道筋ができた（検証対象者がベーシック評価説明会に参加）

・3種の検証を終え、事前の説明如何により、シートの有効性が左右されることがわかりました。

→シートを理解し、広めるメンバーが必要

5. 会計報告

収支計算書

(収入の部)

(円)

区分	予算額	決算額	摘要
業務委託料	1,080,000	1,080,000	一般財団法人非営利組織評価センターより
合計	1,080,000	1,080,000	

(支出の部)

(円)

区分	予算額	決算額	摘要
(1) ツール開発			
企画・開発	180,000	180,000	主：東樹 3.0 日 細矢 3.0 日 生田 5.0 日
成果物作成作業	108,000	134,000	主：生田 7.0 日 須永 2.5 日 会議室費用 2,000
事務費	26,000	28,147	
(2) 検証			
検証対象調整作業	50,000	44,090	主：生田 1.5 日 細矢 1.0 日 交通費
検証 1 作業(中間支援組織)	150,000	150,000	5 か所協力団体×30,000
検証 2 作業(市民活動団体・NPO)	300,000	280,000	8 か所×10,000 2 か所(相模原・平塚)×50,000 集計作業主：細矢 5.0 日サブ 2.0 日
(3) 修正・確認			
修正・確認作業	96,000	108,000	主：生田 4.0 日 須永 1.5 日 細矢 1.5 日
(4) 一般管理費	90,000	75,763	
消費税	80,000	80,000	
合計	1,080,000	1,080,000	

6. 資料

- (1) 調査事業としての自己診断集計結果
 - 2-1) 調査事業としてのまとめ
 - 集計ポイントの算出方法
 - 図表データ詳細
 - 2-2) 診断集計表 (1) /法人集計
 - 2-3) 診断集計表 (2) /任意団体編

- (3) 対象団体診断集計 (ポイント) 表サンプル

- (4) 自己診断シートコメント欄一覧

- (5) 設問とベーシック評価